

小国開放経済における為替リスクとその影響

杏林大学 中村 周史

新興諸国は高い貿易開放度による為替リスクのみならず、資金調達においても深刻な外貨建て信用制約に直面している。このことは先物市場でのリスクヘッジが困難な新興国では、自国のマクロ経済を安定化するためにも、為替変動に対して当局が安定化する誘引を持つことへ繋がっている。Calvo and Reinhart (2002)では、こうした新興国が直面する為替変動の脅威について、Fear of float と表現している。

本報告では、この Fear of float として指摘されている貿易と資金調達それぞれに存在する為替リスクの内、どちらがより深刻な影響を新興国へもたらし、また当局はどのような為替政策を選択すべきなのか、について明らかにする。具体的には、外貨建て信用制約が存在する小国開放経済モデルを用いて、2つの大国との貿易における為替変動を抑制する政策と資金調達における為替変動を抑制する政策の内、どちらが為替変動に対してより効率的に小国の経済を安定化することが出来るのかを、様々なパラメータの下で比較している。またこれにより、新興国の直面している Fear of float の内、小国開放経済にとってより深刻な為替リスクは貿易に存在する為替リスクなのか、それとも資金調達における為替リスクなのか、についても検証している。